

各 位

会社名 株式会社アスコット
 代表者名 代表取締役社長 濱崎 拓実
 (JASDAQ: コード番号: 3264)
 問合せ先 取締役経営管理部長 豊泉 謙太郎
 (TEL. 03-6721-0245)

業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ
および平成 31 年 9 月期業績予想について

当社グループは、平成 30 年 9 月期通期の業績について、平成 29 年 10 月 31 日に発表しました業績予想との差異が生じたこと、および平成 31 年 9 月期の業績予想について、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 平成 30 年 9 月期 通期業績予想値と実績値との差異
 (平成 29 年 10 月 1 日～平成 30 年 9 月 30 日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前 回 予 想 (A)	17,050	1,353	1,035	888	15.06 円銭
実 績 値 (B)	10,452	605	480	366	6.22 円銭
増 減 額 (B-A)	△6,598	△748	△555	△522	
増 減 率 (%)	△38.6	△55.2	△53.6	△58.7	
(ご参考) 前年実績 (平成 29 年 9 月期)	7,520	425	408	333	8.55 円銭

2. 差異の理由

前年比で増収増益となったものの、バリューアップ事業において、第4Qに1棟あたり10億円以上の比較的大きな物件の売却時期が集中し、金融環境が不透明な状況下、当初想定した販売価格での売却を実現するためには、これまで以上の時間を要することとなり、通期までに予定していた複数物件の売却(約65億円)が翌期へずれ込むこととなりました。その結果、売上、利益面ともに計画を下回っております。

3. 平成31年9月期の業績予想について

平成30年9月期は、上記の通りバリューアップの複数物件の売却(合計約65億円)が翌期にずれ込む結果となりました。バリューアップ事業は、これまで取得から6ヶ月程度で売却を実現するケースも多くありましたが、ここ最近では売却まで6ヶ月を超えるケースが増えております。このような状況を踏まえ、平成31年9月期は前期から繰り越した複数物件(約65億円)を含めたバリューアップ物件および開発物件の販売期間を従来よりも長めの設定とすること、および利益率も近年の実績値よりも保守的な設定をして、より確実性の高い販売活動

を行ってまいります。一方で、平成30年9月期は物件の仕入活動が順調に推移したため、棚卸資産残高は前年度対比で約150億円増加し、想定売上高換算で約356億円に達しておりますが、今後も引続き積極的な仕入活動を継続してまいります。

その結果、本日公表の平成30年9月期決算短信に記載の平成31年9月期連結業績予想につきましては、売上高17,448百万円、営業利益658百万円、経常利益144百万円、親会社株主に帰属する当期純利益126百万円を計画しており、平成30年9月期対比増収、増営業利益ではありますが、足許の積極的な仕入活動および保有物件の増加は平成32年9月期以降に多く収益化される見込みであり、平成31年9月期中においては金利負担が増加するため、経常利益ベースでは減益の予想となっております。

平成32年9月期以降につきましては、これまでの仕入の成果が売上として実現していく期として位置付けており、具体的な数値目標を掲げた中期事業計画につきましては、年内を目途に公表する予定であります。

以 上

上記予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に与える不確実な要因に係る本資料発表日における予想を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる場合があります。